

みんなであ 里親

ふくおかし西区 *project*

報告集 2021

里親ショートステイ
普及事業の
これまでとこれから

2021年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

特定非営利活動法人

SOS子どもの村JAPAN



はじめに

認定NPO法人SOS子どもの村JAPANが運営する「子どもの村福岡」では、開設当初より、委託一時保護、ショートステイ、里親レスパイトなどの短期預かりを行ってきましたが、受入れ体制が不十分でお断りせざるを得ない状況が続いていました。施設も遠方にあることや定員枠があることなどから利用しにくい状況にありました。そのため、「地域に住んでおられる里親さんによるショートステイができないか」と、利用する家族が暮らす校区の中で、短期で預かっていただける里親を増やそうという取り組みを2016年度より福岡市西区との協働で始めました。

2019年度当初より独立行政法人福祉医療機構（以下、福祉医療機構）より3年間の継続的な助成を受けることができ、「里親ショートステイの仕組みづくりのモデル事業」が始まりました。2019年度のショートステイ登録里親は、5世帯でしたが、2021年度末は22世帯へ、お預かりした子どもの利用日数は、67日から500日超と大きく増加しています。

本報告書は、この3年間の活動のなかから得た「里親によるショートステイ」を具体的に実施展開していくにはどのような課題があるか、どのような工夫が必要かなど、私たちの成果と提案をまとめたものです。

児童虐待相談は、20万件を越えました。しかし、その子どもたちの97%は、リスクをかかえながらも家族とともに地域で暮らしています。脆弱な家族への支援、地域での子育て支援の重要さは増してきています。今春の児童福祉法の改正でも、児童福祉及び母子保健に関し包括的な支援を行う「こども家庭センター」の設置の努力義務化や、フォスタリング機関を「里親支援センター」として児童福祉施設に位置付けるなど、家族支援、里親支援が強化されます。

すでに、2021年度から市町村が、里親に直接ショートステイを委託できるようになりました。2020年度に私どもが実施した「里親ショートステイ全国調査」では、里親ショートステイを実施している可能性がある市町村はわずか4.8%、児童家庭支援センターは9.3%でした。しかし、先日実施した里親ショートステイ全国ネットワーク会議では、80名を超える自治体、機関からの参加を得ました。里親ショートステイへの関心が高まっていることを実感しています。

本報告書が、これから取り組み始める自治体、機関のみなさまに少しでもお役に立てることが出来れば幸甚です。また、先駆的に取り組みさまざまなご示唆をいただいた自治体、機関の皆さま、継続的なご支援をいただいた福祉医療機構、伴走者としてご意見をいただいた公益財団法人パブリックリソース財団の岸本幸子様、アドバイザーである早稲田大学上鹿渡和宏教授に深謝申し上げます。

認定NPO法人SOS子どもの村JAPAN
福岡市子ども家庭支援センターSOS子どもの村
松崎 佳子

目次

- ① みんなで里親プロジェクトのこれまで
 - 1) みんなで里親プロジェクト・モデル事業3年間のまとめ…… 03
 - 2) みんなで里親プロジェクトの沿革…… 06
 - 3) 里親ショートステイ全国調査からみえてきたもの…… 07

- ② 里親ショートステイ実践のコツとヒント
 - 1) リクルートのコツ…… 08
 - 2) マッチングから実施終了後までのフローと実践のヒント…… 12
 - 3) 子どもの「安心」を大切にするショートステイのコツ…… 14
 - 4) 里親ショートステイQ&A…… 16

- ③ みんなで里親プロジェクト・里親ショートステイのこれから …… 17

- ④ 資料のページ
 - 利用時の情報共有フォーマット(受入表～乳児・幼児・児童～) …… 18～20
 - 利用申込時の区との情報共有項目について …… 21

- ⑤ ダウンロード資料 …… 22
 - ・里親ショートステイハンドブック
 - ・里親ショートステイ全国調査報告書
 - ・みんなで里親プロジェクト報告集2020
 - ・みんなで里親WEBサイト



みんなで里親プロジェクトのこれまで

1) みんなで里親プロジェクト・モデル事業3年間のまとめ

このプロジェクトは、困難を抱えた子どもと家族が、地域の中でともに暮らし続けることができるよう、里親によるショートステイの仕組みを確立し、みんなが助け合い、安心して子育てができる地域づくりを目指すために2014年から始まりました。

ここでは、独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、3年間のモデル事業の目標と、目標達成に向けた取り組み、そして成果を簡単に報告します。

この3年間は、以下のプロジェクト目標を掲げ、取り組みました。

[目標1] **里親ショートステイのしくみをつくる**

[目標2] **里親ショートステイによる地域支援に取り組む**

[目標3] **「みんなで里親プロジェクト・ふくおかモデル」を広める**

この目標を達成するために、「ショートステイ里親を増やす」「里親ショートステイの質の保障」「事業展開の過程を知ってもらう」という3つの視点から取り組みを進めました。

[目標達成に向けた取り組み]

ショートステイ里親を増やす

- 困難を抱えた子どもと家族への市民の理解を促進(公開研修会の開催、WEBサイト作成、SNSによる情報発信)
- 里親ショートステイの理解促進(区の職員、利用者、里親、それぞれに向けて)
- ターゲットを絞った効果的なリクルート手法の検討(「里親って? カフェ」の定期開催、ファミリー・サポート会員、民生委員・児童委員など元々意欲のある人への啓発、未委託里親へのアプローチ)

里親ショートステイの質の保障

- ショートステイ実施における課題解決(効率的なマッチング方法の検討、利用者や区、里親との情報共有、急なトラブルの後方支援、要支援家庭の利用について)
- 里親のための研修プログラムづくり(研修プログラム作成、ショートステイ里親のための研修会開催)
- ピアサポートのための里親グループの育成(交流会の開催)

事業展開の過程を知ってもらう

- 全国調査報告・学会発表(全国調査でつながった他自治体との協働)
- 全国ネットワークづくり(他自治体との情報交換や問い合わせによる課題整理)
- 全市展開に向けた福岡市との協議

それぞれの取り組みについては、P8 ②里親ショートステイのコツ・ヒントでも報告しますが、この3年間の実績と成果を次にまとめました。

[3年間の里親ショートステイ実績]

	2019	2020	2021*年度末見込
ショートステイ里親登録数	5 世帯	10 世帯	22 世帯
里親ショートステイ実施件数 (利用のべ日数)	3 家庭 のべ6件 (67日)	7 家庭 のべ13件 (102日)	25 家庭 のべ82件 (約503日)
うち、要支援家庭の利用	2 家庭	5 家庭	9 家庭

[質の保障のためのツール開発]

- 里親ショートステイ調整マニュアル
- 里親研修プログラム冊子
- 里親ショートステイハンドブック
- 里親ショートステイWEBサイト開設
- 里親ショートステイ全国調査報告書

[事業展開に関する成果]

- 2022年度福岡市での里親ショートステイ全市展開に向けた「家庭養育推進自治体モデル事業」の受託が決定
- ショートステイ利用時の利用者アセスメントの共通フォーマットの作成
(福岡市ショートステイ実施の他機関との協働による)
- 里親ショートステイ実施自治体との全国ネットワークの形成

【まとめ】

この3年間の取り組みの中で、どのような方がショートステイ里親になりうるのか、里親になろうとするきっかけづくりや、里親登録までのモチベーションをどうすれば維持でき登録につながるのかなど、効果的なリクルート手法について検討を重ねました。

また、実際のショートステイの試行を重ねながら、安心安全なショートステイ実施のために必要な「**区や利用者、里親との事前情報の共有**」「**マッチング時の配慮**」「**里親さんの心理的安全性のためのコミュニケーションと後方支援**」についてノウハウを蓄積し、さらに、要支援家庭の場合には、「**調整時や送迎時の利用者とのコミュニケーション**」がケースワークの重要なタッチポイントになること、「**ショートステイ利用後の区との情報共有**」の必要性なども見えてきました。

モデル事業3年目に、ショートステイ実施件数が急増しましたが、数年前にまいた種が春を迎えて芽吹くように、「**2021年度にショートステイ里親登録者が倍増**」したこと、「**区の窓口担当者の中に里親がショートステイ委託の選択肢として意識されるようになった**」こと、「**里親家庭でのショートステイを利用した方から好評を得て、繰り返しの利用を希望されるようになった**」こと、などがその要因として挙げられます。

しかし、急増するショートステイのニーズに応えるには、まだまだ里親の数が不足しており、より一層、里親のなり手を増やす取り組みが必要であり、さらに要支援家庭に対するショートステイ活用のケースワークノウハウの蓄積を今後の重点課題と考えています。

このプロジェクトは、以下の体制で行われました。



里親ショートステイの全市展開に込める思い

福岡市こども家庭課こども福祉係長 福井 充

社会で育てる仕組みを身近なものにする。これを実現する施策の一つとして、福岡市は、西区で実施してきた里親ショートステイを令和4年度から全市に広げていきます。

本市では、人口が増え続ける都市の片隅に「孤育て」の課題があり、例えば小学生の保護者の4人に1人が、子どもを預けられる親族や知人がいないと感じています(※)。子どもショートステイの利用日数は10年連続で増え続け、一時保護専用施設の活用や専用棟設置などで受け皿を増やしてきましたが、そのぶん利用も増え続けています。

そこで、官民共働での啓発や民間手法のリクルートで増えてきた里親家庭でも広くショートステイを行えるよう、実施経験を積んだSOS子どもの村さんや里親を養成・支援しているキーアセットさんの体制を強化することとしました。児相から委託を受けてきた里親家庭が親子分離の予防につながる新たな役割を担うことは、市内の多くの地域で、区の在宅支援とも連携できる身近なサポーターが増えることとなります。市は、計画上も、児童福祉法が最優先とする保護者支援のためのメニューの開発手段として、社会的養護の多機能化を含めており、今回の全市展開は必然ともいえます。

国も様々な展開を見据えた事業を整えつつあり、今後、親子を支える里親の役割が多機能化していくことも考えられます。地域の中にある里親の力が、「孤育て」に伴う精神状態や親子関係への日常的なサポートに活かされる環境が整えば、社会で子どもを育てる仕組みがグッと身近なものとして根付いていくと感じています。

※平成30年度福岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査



2) みんなで里親プロジェクトの沿革

●独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業(モデル事業)

2017-2018年度			2019年度		2020年度		2021年度 (年度未現在)	
登録里親	2017	2世帯	登録里親	5世帯	登録里親	10世帯	登録里親	22世帯
	2018	3世帯	SS試行	6件	SS試行	13件	SS試行	82件
ショートステイ(SS)試行	2017	2件		(のべ利用67日)		(のべ利用102日)		(のべ利用503日)
	2018	2件						

ショートステイ利用者が急増。特に育児疲れによる利用が大半を占め、支援が必要な家庭の増加が顕著に。

ショートステイの必要性と受け皿不足を実感。「地域の里親さんが、地域の子どもをささえることはできないか」「校区に一人、短期の里親を！」

2013

◀子どもの村福岡(西区今津)にてショートステイ受入れ開始

◀「子ども家庭支援センターSOS子どもの村(児童家庭支援センター)」開設

2014

◀福岡市西区をモデル区に「校区里親普及事業」を開始(独立行政法人福祉医療機構助成事業)

・「短期里親啓発キャッチコピー」の区民募集(最優秀賞はお米一升(地域の方の寄贈による))

・「里親って?もっと知ろうカフェ」開催

・西区役所職員を対象にした短期里親啓発研修会の開催

・西区校区里親普及ネットワーク会議の開催

(児相、区役所、施設の里親支援専門相談員、里親会が参加)

短期里親啓発最優秀キャッチコピー

「いつもの町で暮らしたい子どもがいます」

2016

◀「みんなで里親プロジェクト」を西区役所子育て支援課とSOS子どもの村が協働事務局となって展開

◀ショートステイ専用の里親登録制度開始

◀児童福祉法改正にて家庭養育の原則が打ち出される

・里親ひろめ隊の開拓

(ポスターやミニカードを置いてくれる店舗や施設など)

・広報協力者の開拓

・ショートステイハンドブック作成

・「里親って?カフェ」を定期開催

・モデル校区を定め、集中的な啓発活動を展開

「校区里親普及事業」を、

「みんなで里親プロジェクト」に改称

みんなで里親を理解する

みんなで里親のなり手を増やす

みんなで里親養育のチームになる

2018

◀厚生労働省「新たな社会的養育ビジョン」で里親ショートステイが言及される

◀西区と里親ショートステイ仕組みづくりの協議開始

(「みんなで里親プロジェクト」ネットワーク会議を、西区要保護児童支援地域協議会に位置づけ)

◀区役所・児童相談所との三者協議開始

2019

◀「困難を抱えた家族への里親による地域養育支援(里親ショートステイ)の仕組みづくり」3年間のモデル事業開始

(独立行政法人福祉医療機構助成事業)

・モデル校区での地域回覧板の活用

・民生委員・児童委員を対象にした出前講座の開催

・ショートステイ里親と里親希望者の交流会の開催

・「里親って?カフェ」の毎月開催

・社会福祉協議会ファミリー・サポート会員との連携

2020

◀福岡市社会的養育のあり方検討会にて、里親ショートステイの拡充について提言

◀早良区での里親ショートステイ開始

◀福岡市「第5次福岡市子ども総合計画」に里親ショートステイの充実に明記される

・東区での里親ショートステイ開始

・里親ショートステイ全国調査の実施

・ショートステイ里親の研修プログラム検討

2021

・スクールソーシャルワーカーへの事業説明

・SNS、新聞折込チラシの活用、WEBサイトの開設

・「福岡市ショートステイ質の向上のための作業部会」開催(乳児院・児童養護施設・福岡市との協働)

・ショートステイ受入施設との連携

・里親ショートステイ全国ネットワーク会議の開催

◀福岡市家庭養育推進自治体モデル事業の受託

◀全市展開に向けた福岡市との協議開始

2022

◀里親ショートステイ全市展開へ

3) 里親ショートステイ全国調査からみえてきたもの

調査概要と結果

- 調査目的 全国の里親ショートステイの現状と課題を把握する
- 対象 里親によるショートステイを実施する市町村及び全国の児童家庭支援センター
- 方法 インターネットによる予備調査を行い、そのうち里親ショートステイを実施している可能性がある市町村84カ所(1739市町村中)と、児家セン79センター(133センター中)にアンケート調査を行い、その後、里親ショートステイを実施している市町村、児童家庭支援センターの地域の特徴を生かした取り組みを「独自」や「他機関との協働」など大きく4つのモデルに分類し、ピックアップした機関にヒアリング調査を行った。
- アンケート結果
 - 里親ショートステイを行っている市町村 25カ所
 - 里親ショートステイを行っている児家セン 5カ所(9.3%)
 - 法人施設内でショートステイを行っているセンター 54センター(68.4%)

里親ショートステイを実施している機関の「導入理由」「利点」として、「施設の定員の問題」「施設がない」「里親による子育て支援の推進や専門性の活用」「ショートステイを実施中でも子どもが保育園や学校等に行ける」があがっていた。

里親ショートステイの「課題」として、「里親不足」「マッチングなどの調整支援体制の不足」「里親は都道府県(児童相談所)の管轄であり、児童相談所は里親に一時保護委託をするため、ショートステイに里親を割り当てられないと判断している」ことなどが課題としてあがっていた。

ヒアリング結果 ～里親ショートステイの推進における課題～

1. 要支援家庭への支援

利用家庭に、「ひとり親」「精神疾患」等により虐待リスクのある家庭が増加していること、また、利用する子どもも「低年齢」「被虐待体験など不安定な養育環境」「アタッチメントの問題」「多動や発達上の課題」などが多くみられた。利用中に親子の問題が初めて見えてくることも多く、適切なアセスメントの実施や里親への支援、利用後の継続的な家庭支援体制の構築が必要。

2. ショートステイ里親の不足

利用ニーズに対して、里親が不足していること、短期里親や里親ショートステイの啓発・ルートをすすめることが、結果的に里親全体の増加、里親制度の普及に繋がる。

3. 施設多機能化に向けた児童家庭支援センターによるショートステイ調整

児童家庭支援センターの大半が児童福祉施設併設であるため、施設(センター)にショートステイ専用枠(棟)を設置し、児童家庭支援センターが里親支援や調整役を担うことで、施設の多機能化や地域支援の可能性が広がっていく。

4. 里親への後方支援体制の整備

乳児、医療的ケア児、障がい児など、特別な配慮が必要な子どもへのリスクマネジメントも含め、個人宅で預かる里親への後方支援体制(緊急時の受入れ施設の確保や夜間相談対応等)の整備が不可欠。

5. 連携支援

ショートステイ利用による虐待防止及び親子分離の防止をめざす要支援家庭も多く、多機関連携のための情報共有や、要保護児童支援地域協議会(要対協)の中での家族応援会議の実施などにより、アフターフォローの体制を強化する必要あり。

2

里親ショートステイ実践のコツ・ヒント

1) リクルートのコツ

① ターゲットをしぼる

ショートステイ里親の登録者を増やすためには、エリアやコミュニティをしぼってリクルートすることが重要です。アクティブな高齢者が参加するサークル、子育て世帯が多くいるエリア、子育て支援のサークルや団体のメンバーなど、ショートステイ里親になれそうな方やコミュニティに的をしぼってアプローチしていきます。

【未委託の里親さん・既存の里親さん】

ショートステイ里親の条件が養育里親である場合は、養育里親登録とショートステイ里親登録の2ステップが存在します。これから新規にショートステイ里親を開拓していく場合は、新規に養育里親を開拓していくことから始めるのではなく、既存の里親さんにショートステイ里親登録をしてもらう方がリクルートの効果が高いのはもちろん、養育の質の面でも安心です。また、まだ子どもを委託されていないけど、子どもが来るのを待っている未委託の里親さんたちにとっては、短期で子どもを預かることは、子どもと関わる体験を積むことにもなります。すでに里子さんを何人も育てている既存のベテラン里親さんは、どんな子どもにも対応できる養育力の高い方が多く、いずれもショートステイ里親として活躍すること間違いなしです。

【社会貢献をのぞむシニア】

仕事も子育ても終わり、第2の人生を子どもたちや地域のために使いたいと願う方たちがいます。意欲も時間もあり、「長期の里親は無理だけど、短期なら…」と考えてくださいます。体力の心配や、子育てから離れて久しいことに心配を持たれることもありますが、後方支援があること、数日のショートステイであれば、70代の方でも楽しんでされていることなどをお伝えすると、不安も少なくなるようです。

【子育てまっさい中世代】

2~3人の子育てをされていて、「時々なら一人くらい増えてもかまわない」「自分も色んな人に助けられて子育てしているので、誰かの助けになりたい」とショートステイ里親を希望する若い世代のお母さん・お父さんたちがいます。平日は仕事をしていても、金曜日の夜から土日にかけて1~2泊のステイなら大丈夫なことが多いケースや、実子さんと、利用する子どもが子ども同士で遊べて楽しいステイになるようです。

【すでに子育てサポートに取り組んでいる人】

ファミリー・サポート会員など、元々子育て支援に関心が高く、子どもと関わるボランティアなどをされている方は、宿泊を伴うショートステイに対しても、普段やっていることの延長としてとらえてもらいやすいようです。意欲もあり、子どもに関わるスキルも高い方が多く、登録すれば即戦力になる皆さんです。



② 多様なタッチポイント(媒体や機会)をデザインし、登録プロセスをつないでいく

ターゲットごとに、届きやすいタッチポイントは異なります。新聞折込チラシ、WEBサイト、SNS、地域回覧板など、様々なタッチポイントを戦略的にデザインします。虐待防止月間や里親月間など、社会的な動きに合わせて、集中的にタッチポイントを増やしていくことも有効です。また、それぞれのタッチポイントを独立して捉えるのではなく、問い合わせや里親登録に至るプロセスを想像しながら、タッチポイント同士をつないでいくようにデザインしていくことが重要です。

【説明会等を定期的を開催する】

里親説明会(「里親って? カフェ」)や個別説明会を継続的に、定期的を開催することで、スケジュールが合わずにタイミングを逃し、モチベーションが下がってしまうことを防げます。可能な限り、数回先のスケジュールまでを示し、その情報を目にした時に、すぐに申し込みが可能となるようにデザインします。

【タッチポイントが繰り返し目につくように】

里親登録に一步踏み出そうとする人は、お店においてあるミニカード、電車のつり広告、施設に貼ってあったポスターなど、何度も繰り返し「里親」に関するタッチポイントを目にする中で決心を固めていく場合があります。時には数年かけて気になり続けてやっと一步を踏み出して説明会に来られる方もいます。

【SNSを活用する】

SNS広告は安価にターゲットをしばり、情報を届けることが可能です。また、どういった投稿にどのようなアクションがあったのか、効果検証も容易にできます。リアクションが多かった投稿を分析し、SNS広告を活用しながら、情報発信に取り組みます。

【タッチポイントから次のステップにつなぐ】

ミニカードやポスターなど、町のあちこちで目につくタッチポイントに、スマホをかざせばより詳しく里親ショートステイについての情報を得られるWEBサイトや、問い合わせができるフォームにつながるよう、次のステップに容易につながるデザインの工夫をすることが重要です。

【WEBサイトをはじめとしたタッチポイントが、使いやすいデザインとなる工夫をする】

WEBサイトにアクセスすると「里親って? カフェ」や研修会などの参加申し込みや、問い合わせフォーム等、直接コミュニケーションできる機会にスムーズにつながるよう、デザインの工夫をすることが大切です。また、ショートステイ里親は特に、一般的な養育里親や一時保護里親、週末里親等の類似制度と何が異なるのかが分かりにくく、理解に至るまでに時間がかかります。複雑な情報をシンプルに理解できるように、デザインの工夫をします。

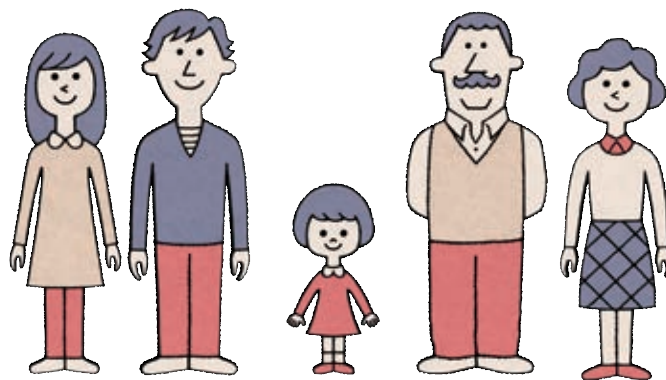
【ポジティブなメッセージとビジュアルをデザインする】

「里親」に対して、子どもが大きくなるまで養育しなくてはいけないイメージを持っていたり、経済的負担を過度に感じる人が少なくありません。預かりが「短期間」から可能であることや、負担の低さを感じられるメッセージや、ショートステイ里親の現実に即したポジティブなイメージをイラストや写真等を活用しながらデザインします。

～子どもの存在が幸せな変化をもたらす～

コロナ禍でステイホームが長期化するなか、子どもを巡る悲惨なニュースを目にする機会が増え、その度に沸々とした思いがありました。子どものつらさとともに、親がそうなる原因は社会の側にあるのではないかと、誰が子どもを支えるのか、自分たちも何かできないかと家族で話していたちょうどその時、短期で子どもを預かる「校区里親」という取り組みを知りました。これなら自分のライフワークと両立して携わることができると考え、さっそく里親登録をしました。支援機関と連携しながら関われる点に安心感があり、お母さんがしんどい時には地域で家族を支え、地域で子どもを育てようという取り組みは社会的に大変意義があると思っています。

里親をしていると、地域の子どもの預かる責任感を感じつつ、目の前の子どものことで生活が一変しますが、日々成長する子どもの存在は幸せな変化をもたらし、気持ちにも張りがでていきます。少し心配だった新生児のお預かりの時の睡眠不足も、体力勝負の幼児期も、短い期間だからこそ全力で対応できます。預かってみると、どの月齢の子どもも可愛く、それなりに大変で、大差ないと気づきました。育児疲れでショートステイを利用されたお母さんの、子どもをお返りする時の表情や姿が、お預かりする時と全然違い、休養して気分転換されたことが感じられる時、やりがいを実感しました。お母さんが元気を取り戻して日々の子育てに取り組んでもらえることは何より嬉しいことで、「また何かあればいつでも声をかけてくださいね」と、心の中で応援する気持ちになります。



③ 里親になるまでのステップをサポートする

ショートステイ里親に関心を持ち、実際に話を聞きに足を運び、里親登録研修まで進むまでには、数年を要する方もいます。関心を持った方を丁寧にフォローしていくことが、里親になるモチベーションを維持し、次の一步を踏み出す後押しとなります。

【関心を持った方にはすぐに連絡をする】

問合せのメールや電話があれば、どの程度の関心があるかを確認しつつ、次の「里親って？カフェ（里親説明会）」や個人説明会などの案内をします。気持ちが高まっているうちに、里親登録に関する資料などをお送りし、里親登録の具体的なイメージを思い描いてもらうことで、よりモチベーションが高まります。

【カフェや研修会に参加した後にフォローする】

実際に話を聞きに来られたり、里親登録研修の基礎研修に進んだ方には、フォローの電話やメールを入れ、次のステップにすすむことを促します。次のステップになかなかすすめない方がいれば、その要因が何かを丁寧に聴き、心配事や不安を和らげていくことも大切です。

【里親さんとの交流会に誘う】

すでに里親登録し、ショートステイを受けている里親さんの体験談を聴いたり、実際の里親ショートステイの現状を聴くことは、里親登録を迷っている方や、もう一歩が踏み出せずに逡巡している方のモチベーションをあげ、背中を後押しすることにつながります。

④ 登録後も丁寧にフォローする

登録して安心してはいけません。登録前だけではなく、登録後も丁寧にコミュニケーションを図ることが、里親との信頼関係を築いていくことにつながり、ショートステイの円滑な受入れにつながります。

【時間をあけずに体験してもらう】

登録をしたのに、依頼がなかなか来ないでいると、モチベーションは下がっていきます。一度体験することで、ショートステイのイメージが持て、自信にもつながり、次の委託も受けやすくなります。

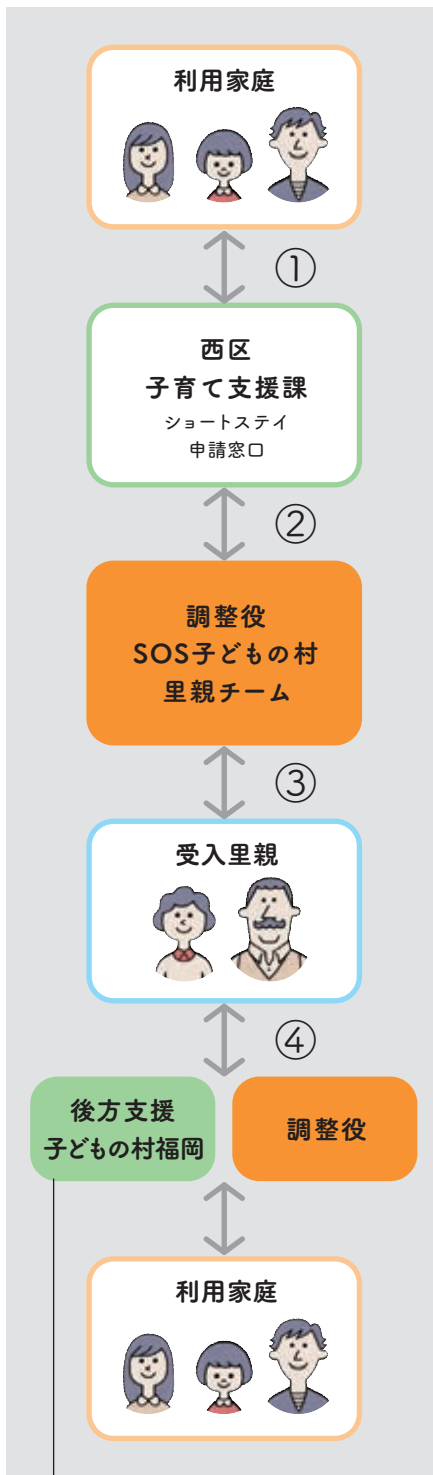
【家庭の状況を把握する】

仕事や家族の状況の変化によって、ショートステイを受けることができるかどうか、受け入れられる子どもの年齢や人数などもかわってきますので、定期的に家庭状況を確認することが必要です。しばらくショートステイを受けていない方であっても半年に一回くらいは連絡を取り、関係を維持していくことが大切です。

【里親同士のピアグループをつくる】

同じようにショートステイを受け、苦労や喜びを分かち合うことができる仲間がいることは、登録後のモチベーションを高め、協力してショートステイに取り組もうとするきっかけ作りにもなります。

2) マッチング(ショートステイ調整)から 実施終了後までのフローと実践のヒント



後方支援 子どもの村福岡

* 緊急時受入

① 利用申込・利用家庭状況ヒアリング

* 受入票記入(窓口がヒアリングして記入) * 資料ページ参照

* 送迎・登園通学の希望確認 * 必要準備物確認

* 里親ショートステイ利用同意書 * 要支援家庭情報の確認

＼ここがヒント／

- 施設と里親の違いを窓口で説明してもらう。
- 施設のショートステイ空き状況をオンライン共有し、利用調整を効率化。
- 市内ショートステイ受入先(施設・里親)で共通の情報共有シート(*資料ページ参照)を作成、利用申込時の家庭情報の質を一定に確保。
- 特に、要支援家庭の場合は担当者や支援状況を確認。

② 依頼

* 調整打診 * 情報提供 * 決定通知書

③ マッチング

* 里親への受入打診 * 利用期間の調整 * 送迎調整

* 登園・登校支援の可否の確認 * 子ども情報共有

＼ここがヒント／

- 里親家庭情報(受入可能曜日、受入可能な子どもの年齢・性別、家族状況など)や委託履歴が随時更新されるよう、定期的な登録里親のフォローや里親登録情報をデータベース化。
- LINE等を活用し、連絡方法を統一化する、受入可能条件によって里親をグループ分けして一斉打診するなど、マッチング方法を効率化。

④ ショートステイ開始～終了

* 送迎支援・送迎同行 * 備品貸出 * 受入中の電話フォロー

* 必要に応じて家庭訪問(ロングステイの場合)

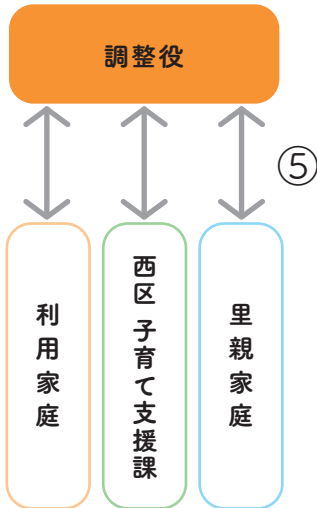
* 緊急時対応(24時間電話対応) * 後方支援施設との連携

＼ここがヒント／

- 自身で送迎できる家庭は、できる限り里親宅近くまで送迎してもらうことを原則とし、利用者の力を削がない支援のバランスを考えていく必要あり。
- 継続利用の家庭に関しては、里親のみで子どもの送迎をする場合もある。その場合の利用者と里親間で必要な連絡は調整役を通して行う。

＼ここがヒント／

- 後方支援の基本的な考え方を利用者と里親双方に共有しておく。(どういう状況で病院受診するか、どのような時に利用中止するかなど)
- 後方支援が必要な場合の対応フローを作成し、後方支援施設、里親と共有しておく。
- 急な発熱や感染症の疑いなど、夜間連携できる医療機関を開拓しておく。



⑤ 終了後フォロー

- * 受入中の記録(日誌) * 里親のフォロー * 利用者へのアンケート
- * 区との情報共有

＼ここがヒント／

- 日誌はオンラインフォームを活用し、スムーズな情報共有を図る。
- 受入中の子どもの気になる言動や行動、親とのやり取りの中で得られる家庭の情報は、要支援家庭のアセスメントにつながることもあり、区とも共有する。
- 区の支援計画にショートステイがどのように位置付けられているかを確認し、ショートステイを通じたケースワークにつなげる。

＼ここがヒント／

- 特別な配慮が必要な子どもの受入れ時には、里親さんへの丁寧なフォローが必要。
- 里親さんの相談に随時助言したり、時には、保護者から子育てに関する相談を受けることもあるため、子どもの発達特性に応じた関わりやアタッチメントについての専門性も調整役には必要。

コラム

～調整役の仕事～

お母さんに精神疾患があり、育てにくさを感じておられ、育児疲れで休養を目的として定期的に里親ショートステイを利用される家庭があります。市内の施設は公共交通機関で行くにも少し不便なところもあり、精神状態が悪化すると子どもを遠くの施設に連れていくことも難しいため、自宅までの送迎ができる里親ショートステイを希望されます。「明日から1週間」など急な依頼がはいることもあります。いつも預かっている里親さんの中には、お仕事をされている方もいるので、普段利用している保育園に登園しながらショートステイを行っています。

区役所から依頼の連絡があると、調整役の仕事が始まります。まずは、里親さんに電話し、仕事や家庭の状況を確認しながら受入可能かどうか確認し、依頼期間が難しい時には、里親さんが可能な日程を利用者さんに再提案することもあります。保育園を利用する場合には、保育園との連絡調整も必要です。里親さんがショートステイを受けることを説明し、誰が保育園にお迎えに行くのかを伝え、ショートステイ中の子どもの様子を気にかけてもらうようお願いしたりします。

調整役は、区役所、里親さん、利用者さん、保育園などと、子どもの情報や、利用者さんと里親さんの要望、疑問や心配事などを丁寧に聴きながら、それぞれが安心してショートステイを利用できるよう情報の共有を行います。調整をする時には、利用者さんや里親さんが不安や緊張感を抱かないよう、話しやすく、何でも相談しやすい雰囲気をつくることを大切にしています。また、子どもを里親家庭に託すことへの利用者さんの不安を和らげるために、ショートステイ中のイメージを具体的に、相手が理解しやすい言葉で説明するようにしています。

可能なご家庭の時には、里親さんと利用者さんが、開始前には普段の食事やお風呂のこと、利用後には受入中の様子について直接やり取りできるような時間をとり、お互いが顔見知りになって安心して子どもを預けることができる関係をつくる機会をつくることを意識します。利用者さんと里親さんが直接やり取りすることで、里親さんの判断にお任せする部分ができ、里親さんの中にも「自分がやるんだ」という責任感や意欲が生まれ、主体的に自信をもってショートステイに取り組んでくださるようになってきていると感じています。

3) 子どもの「安心」を大切にできるショートステイのコツ

一時的に親と離れる子どもが、里親家庭で少しでも安心して過ごすことができることは、預ける保護者の安心にもつながります。子どもの「安心」を大切にできるショートステイのコツを、これまで子どもたちを受入れてきた里親さんの声からまとめました。

1. 親と離れる子どもの不安に寄り添う

たとえ短期間であっても、親と離れることは、子どもにとっては恐怖や不安を感じる出来事です。中には、かつて一時保護や施設入所を経験した子もいるかもしれません。親が病気で入退院を繰り返している子もいるかもしれません。「親が迎えに来なかったらどうしよう」、「親がこのまま帰ってこなかったらどうしよう」、たとえば表情や言葉にしていなくても子どもたちが無意識に抱えている不安に目を向け、寄り添う姿勢が大切です。

2. 子どもの普段の暮らしを尊重する

家族一人ひとりに自分の洋服やお箸があること、食事の後に歯磨きをすること、毎日お風呂に入ること、布団の上で寝ること、一見当たり前と思えることも、家庭の文化やルールは様々で、当たり前ではない生活習慣もたくさんあります。一方的に里親家庭のやり方を伝えるのではなく、普段の子どもがどんな生活をしているのか、子どもに尋ねながら、子どもの習慣も尊重したうえで、里親家庭のやり方を教えていくことが大切です。

3. 必要以上にサービスしない

ショートステイでやってくる子どもが特別なお客様のように感じられ、色んな体験をさせてあげたい、子どもが喜ぶ食事をつくりたい、こんなお土産を持たせたい・・・と、色々なことをしてあげたくなるのはとても自然な感情です。しかし、子どもがその里親家庭での特別な経験を、日常の中で親に求めるようになることが保護者の負担になったり、子どもの要求がエスカレートしたりすることもあるかもしれません。里親家庭のいつもの暮らしを提供し、子どもが求めてきても、応えられないことには「できない」と伝えることが必要な時もあるでしょう。

4. 子どもが選択できるものを準備する

緊張している子どもには、「頑張って無理しなくていいよ」「できなくてもいいよ」と言葉で伝えてあげることも大切です。また、「どっちのお箸がいい?」「どっちのオヤツが好き?」「(タオルを触って)どっちが好き?」と選択肢を示してあげることで、子どもは自分の気持ちや考えを表現していいと感じられ、自分で選べることは安心感にもつながります。

5. 子どものペースで、子どもの心のスペースに入らせてもらう

子どもの心のスペースには少しずつ入れてもらいましょう。子どもはスキンシップをどのように感じますか? 急に頭や体を触られることを嫌がっていませんか? 質問ばかりしていませんか? 子どもに受け入れてもらうためにも、子どもたちのペースや子どもが心地よいと感じる距離感を大切にしましょう。

6. 最初と最後は大切に

不安でいっぱいかもしれない子どもを最初に自宅に迎え入れる時には、笑顔で明るく迎え入れましょう。また、たとえ1回限りの利用になるとしても、たった1回のショートステイの利用が、その後の子どもを支える体験になる場合もあります。帰りのお別れの時にも、「またいつでも来てね」という気持ちを心の中で持ちながら送り出してあげてください。

ショートステイでは、子どもの事前情報が充分にない場合もあります。また事前情報があっても、好き嫌いはないと聞いていたのに食べられないものがあったり、好きな遊びが違ったり、実際は全然違う…という場合もあります。目の前にいる子どもの状態をしっかりと見てもらうこと、子ども自身に自然な会話の中で「どんな遊びが好き？」「食べ物は何が好き？」と聴きながら今の子どもの状態を理解していく姿勢が大切です。

また、ショートステイの間、子どもが楽しそうにしていなかった、一言も喋らない、そんなこともあるかもしれません。しかし、その子がどのように感じていたかはその時にはわからないことも多いものです。子どもの行動をすぐに善悪で判断せず、その行動の背景に何があるのかに心を配りながら、子どもに寄り添っていくことが、子どもの「安心」を大切に作るショートステイにつながっていくことを忘れないようにしましょう。

安心ポイントをupさせる暮らしの場面

暮らしの中で、特に子どもの安心感を高める機会となる重要な場面があります。

食事

食事場面はショートステイ中にも必ずあり、特に重要な時間です。子どもが好きなものを準備できれば何よりですが、「いらない」と言われてガッカリしてしまうこともあるかもしれません。普段なら食べられるものや好きなものでも、緊張して食べられないということもありますので、「苦手なものは無理に食べなくていいよ」「残してもいいよ」「食べられるものを、好きな量だけ食べたらいいんだよ」と声をかけてあげてください。

お風呂

お風呂に入ることを嫌がる子どもは意外と多いです。知らない家で、知らない人の前で服を脱ぐことは、どんな小さな子どもでも抵抗を感じる場合があります。「見てた方がいい？一人で入る？どうする？」と子どもにきいてみてください。お風呂に毎日入る家庭もあれば、2～3日に1回しか入らない家庭もあります。「入りたくない」という子どもの気持ちを一度受け止めてから、身体の汚れ具合などをみてお風呂に入るかどうかも考えていいのではないのでしょうか。

寝る時

昼間は元気いっぱい遊んでいるように見える子どもも、夕方から夜にかけてだんだんと心細くなっていくことがあります。トイレに行くことを怖がりだす、夜寝る時に電気をつけて欲しがる、なかなか目を閉じることができない。そんな時は、傍にいて、ゆっくりとお話を聴いてあげたり、子どもが安心できる方法を一緒に考えたりしてみましょう。また、夜になると日ごろの困り感を語りだす子どももいます。家庭の事情や、お父さんとお母さんの関係などを話し始めるかもしれません。色々と詳しく聴きたくなるような心配な話が出てくるかもしれませんが、話の真偽を疑ったり、同調しすぎたり、親を否定したりしないように、「そうなんだね」とただ聴いてあげることにとどめておくことも大切です。

4) 里親ショートステイQ & A

Q.里親ショートステイ実施にむけて、市町村とどのような基盤づくりをしましたか？

A. まずは、ショートステイの窓口となる区役所の関係各課に、「里親制度」そのものと、「短期の里親」がショートステイを受けることができることについて啓発しました。その後、地域の関係機関で構成される「みんなで里親プロジェクト」を区の要保護児童対策地域協議会の事業に位置付け、定期的な情報共有や課題解決についての意見交換の場をつくりました。また、里親がショートステイを受けることの区の担当者の不安を一つ一つ解消し、「調整役」が間に入ることの意義について周知をはかりました。

Q.リクルートで工夫されたことは？

A. 里親相談会「里親って？カフェ」を毎月1回の定期開催とし、里親に関心のある層にターゲットを定めてリクルートを行いました。特に効果的だったのは、ファミリー・サポート・センター会員広報誌にPRチラシを折り込み配布したこと、福岡市児童相談所と連携して既に登録している養育里親に向けてのPRチラシを配布したこと、市政だよりや市の広報紙に里親ショートステイについて掲載する等でした。

Q.調整役って何をするの？

A. 詳しくは、P12-13をご覧ください。区役所、利用者、里親、通園通学先との連絡、および各種調整は全て調整役「SOS子どもの村」が行っています。

Q.登録里親の情報共有や調整はどうしているの？

A. 養育里親として登録されたあと、「SOS子どもの村」でショートステイ里親登録を行います。その情報を元に「SOS子どもの村」が調整役となり、各区や保護者、里親と連絡調整を行います。必要な場合は福岡市児童相談所の里親担当者と連絡をとり、情報共有を行っています。

Q.夜間や緊急時の対応はどうしているの？

A. 「SOS子どもの村」調整役が保護者と里親からの相談や緊急時に連絡できるよう専用の携帯電話を持ち、24時間対応できる体制をとっています。また、預かりの継続が困難な状況が発生した場合(実子の発熱等)は、後方支援施設で残りの期間のショートステイ受け入れるよう調整しています。

Q.送迎はどうしているの？

A. 以前は「SOS子どもの村」スタッフが行っていました。最近では保護者や里親自身が送迎することも多くなっています。状況に応じて調整役が送迎に立ち会います。継続利用の保護者など、保護者と里親双方が直接面会可能な場合、スタッフが同行せずに子どもの送迎を行うこともあります。その場合も、保護者と里親間の連絡については調整役が間に入ります。保護者と里親どちらかが面会不可の場合は、「SOS子どもの村」が送迎を行います。

Q.保険はどうしているの？

A. 福岡市では、ショートステイ期間中の子どもの怪我等について、福岡市が加入している団体総合生活補償保険(傷害死亡・傷害入院・通院)が適用されます。里親や里親家族の怪我、車や家財道具等の破損については対象ではありません。※全国里親会の「里親総合保険」に加入している場合各里親会より全国里親会へ名簿を提出した場合、里親が補償対象となります。

Q.里親ショートステイの委託費について算出根拠は？

A. 福岡市のショートステイ事業実施要綱に記載された規定日額(2歳未満は10,700円、2歳以上は5,500円)を「SOS子どもの村」から里親に支払います。送迎加算についても同様に記載された規定日額1,860円を、送迎実施した日のみ支払います。
※市町村からのショートステイ委託費は半期にまとめて請求するため、「SOS子どもの村」で立て替え、実施の翌月に里親指定の口座へ支払います。

Q.個人情報の取り扱いについてはどうしているの？

A. ショートステイ里親登録の際に、ショートステイの委託において知り得た利用者の個人情報を漏らさない旨の誓約書に署名していただきます。区や保護者から聞き取った子どもや家庭の情報については、子どもの受入れに関わる部分のみを里親に伝えます。また、里親の個人情報については、利用者にお伝えすることはありませんが、保護者と里親が双方同意し、自宅送迎する場合は住所をお知らせします。各区が発行する「ショートステイ利用決定通知書」の宛名は「SOS子どもの村」となっており、里親名は記載されておられません。

3

みんなで里親プロジェクト・里親ショートステイのこれから

3年間のモデル事業を終え、これからチャレンジすることを以下にまとめました。

【福岡市全区への展開】

～地域子育て支援としての里親ショートステイ事業体制の構築～

2022年度は、西区で取り組んできた里親ショートステイを福岡市全区で展開し、里親ショートステイが地域子育て支援メニューとして市内全区役所の中に浸透していくことを目指します。第一歩として、福岡市内のショートステイ受入施設や里親ショートステイ調整機関であるキアセット、福岡市などと協働し、ショートステイの情報共有のための共通フォーマット作成などを通して、区や実施機関との情報共有の質の向上を図ります。

【要支援家庭への里親ショートステイ活用による支援】

～区役所子育て支援窓口との連携～

この3年間に本事業で里親ショートステイを利用したご家庭の約半数は要支援家庭(要対協ケース)でした。全国調査ではその割合が9割にのぼる自治体もありました。両親ともに精神疾患を抱えている、乳児院措置から自宅に戻ったばかり、子どもに発達特性があり、ひとり親家庭の母親が疲弊しているなど、その背景も様々であり、子どもと家庭のアセスメントが重要になります。利用中の子どもの様子や、利用者とのやり取りの中で見えてくる家族の現状を適切にアセスメントし、区役所と共有しながら今後の支援に活かすケースワーク力や、利用者や里親からの相談にタイムリーに対応するなど、調整機関の専門性を高めることも大きな課題です。

【施設ショートステイと里親ショートステイの連携】

～施設と里親、児家センの連携～

多職種がチームで担う施設では、子どもに発達や心理的な課題があり、里親家庭での受け入れが困難な場合や、緊急時のトラブルにも柔軟に対応できるという強みがあります。一方で、里親家庭の場合は、一人または一組のきょうだい児と丁寧に関わっていただくことができ、子どもにとっては自分の家とは違う家庭を知る経験にもなります。施設、里親それぞれの長所を活かし連携することで、家族支援の奥行きが生まれます。もし、児家センを付設する施設が里親ショートステイの調整機関となれば、双方の長所を活かした家族支援の展開につながり、施設多機能化の推進につながっていくのではないのでしょうか。

【里親制度とショートステイ里親の啓発推進】

～既存里親のリクルートを通して～

まだまだ、ショートステイ里親は足りておらず、里親ショートステイの存在を知らない区や、里親制度そのものが理解されていない地域もあります。これまでのリクルート経験を活かし、今後もその地域の特色に応じたリクルートを展開していきます。

また、これからは既存のベテラン里親さんや未委託里親さんとの連携が重要になってきます。ショートステイの経験を積んで長期養育の里親になる方、長期養育で経験を積んでショートステイの担い手になる方、長期養育の前にショートステイで経験を積まれる方、このような多様な里親の在り方が広がることで、子育て支援の担い手としての里親の層が厚くなっていくことが期待されます。ベテラン里親と若手里親がつながり、育ちあひながら地域の家族を支えていく。このような多様な家族が支え合う地域づくりを目指します。



利用時の情報共有フォーマット(受入表～乳児～)

*2022年3月現在、福岡市と検討中のものを参考資料として掲載します。

ショートステイ 受入れ表(乳児用)案

受付日:	年 月 日	受付区:	新規 ・ 継続
期間:	月 日 ~ 月 日	担当者:	

ふりがな	愛称	性別	生年月日	血液型	平熱							
児童名		男・女	年 月 日 (歳 カ月)	型	°C							
ふりがな	続柄	連絡先										
保護者名		(自宅・携帯)										
住所			送迎									
福岡市	区	送り:	時間:	場所:								
		迎え:	時間:	場所:								
健康状態	身長: cm	体重: kg	服のサイズ:									
	アレルギー: 無・有	食べ物 ()	動物 ()	その他 ()								
	病名 ()											
	服薬: 無・有	時間(朝: 昼: 夜: 寝る前:)	服薬方法 ()									
	塗り薬: 無・有	時間(朝: 昼: 夜: 寝る前:)	塗り方 ()									
	かかりつけ医:											
	注意が必要なこと:											
食事	<input type="checkbox"/> ミルク	メーカー ()	哺乳瓶(乳首)のサイズ ()									
		量(1回: cc) (1日合計: cc)	回数(1日: 回)	時間(時間おき)								
		授乳にかかる時間(1回: 分)	吐乳: 無・有									
	<input type="checkbox"/> 離乳食	時期(初期・中期・後期・完了期)										
		量(1回:)	回数(1日: 回)	時間()								
		内容:										
		好きなもの:										
		苦手なもの:										
		食べさせていないもの:										
		おやつ(種類:)	(1回量:)	(時間:)								
		コップ(マグ: 吸い口・ストロー、両手付コップ、片手付コップ、その他:)										
		注意が必要なこと:										
睡眠	睡眠時間: 午前 () 午後 ()											
	寝る時の体勢: だっこ(縦・横)・おんぶ・添い寝・おしゃぶり・その他 ()											
	寝る時のくせ:											
	注意が必要なこと:											
排泄	おむつ: メーカー () サイズ ()											
	便の回数(1日: 回) 尿の回数(1日: 回)											
	注意が必要なこと:											
入浴	好む・嫌がる (状態: 大泣きする等)											
	注意が必要なこと:											
発育	<input type="checkbox"/> 首すわり	<input type="checkbox"/> 寝返り	<input type="checkbox"/> おすわり	<input type="checkbox"/> ハイハイ								
	<input type="checkbox"/> つかまり立ち	<input type="checkbox"/> 伝い歩き	<input type="checkbox"/> 人見知り									
	注意が必要なこと:											
生活リズム	6時	8時	10時	12時	14時	16時	18時	20時	22時	24時	2時	4時
備考												
確認事項	<input type="checkbox"/> ショートステイ利用時にご持参いただくものを説明 ※別紙 <input type="checkbox"/> 里親家庭でのショートステイについて説明 ※別紙(里親の場合のみ)											

4

利用時の情報共有フォーマット(受入表～幼児～)

ショートステイ 受入れ表 (幼児用) 案

受付日： 年 月 日 受付区： 新規 ・ 継続
 期間： 月 日 ～ 月 日 担当者：

ふりがな	愛称	性別	生年月日	血液型	平熱
児童名		男・女	年 月 日 (歳 カ月)	型	℃
ふりがな	続柄	連絡先			
保護者名		(自宅・携帯)			
住所			送迎		
福岡市 区			送り： 時間： 場所：		
			迎え： 時間： 場所：		
健康状態	身長： cm 体重： kg 服のサイズ：				
	食物アレルギー： 無・有	えび・かに・小麦・そば・牛乳・落花生・卵 (黄身・白身・全卵)			
	その他アレルギー： 無・有	動物： 其他 (花粉・ハウスダスト等)：			
	病名： 時間 (朝： 昼： 夜： 寝る前：) 服薬方法 ()				
病名： 時間 (朝： 昼： 夜： 寝る前：) 塗り方 ()					
病名： 時間 (朝： 昼： 夜： 寝る前：) 塗り方 ()					
塗り薬： 無・有					
かかりつけ医					
注意が必要なこと	<input type="checkbox"/> 療育手帳 有				
体質	乾燥肌 かぶれやすい 便秘気味 下痢をしやすい 風邪を引きやすい 熱がやすい				
	乗り物酔い 喘息 けいれん その他：				
注意が必要なこと：					
食事	食事の補助	不要・必要 ()			
	食べる量	多い ・ 普通 ・ 少ない			
	好きなもの 苦手なもの				
	食べさせていないもの おやつ				
飲ませ方	コップ (マグ：吸い口・ストロー、両手付コップ、片手付コップ、その他：)				
飲み物	お茶 ・ お水 ・ ジュース ()				
注意が必要なこと：					
睡眠	昼寝時間：午前 () 午後 ()				
	起床時間：	就寝時間：	夜泣き： 無 ・ 有		
	寝る時の体勢：だっこ (縦・横) ・ おんぶ・添い寝・おしゃぶり・その他 ()				
	寝る時のくせ：				
夜尿： 無 ・ 有					
注意が必要なこと：					
排泄	自立・ 知らせてくれる ・ おむつ：メーカー () サイズ ()				
	便の回数 (回/ 日) 現在の状況： 便秘 ・ 普通 ・ 下痢又は軟便				
	注意が必要なこと：				
入浴	好む・嫌がる (状態：大泣きする等)				
注意が必要なこと：					
生活リズム	6時 8時 10時 12時 14時 16時 18時 20時 22時 24時 2時 4時				
性格	人見知り おしゃべりが好き 興奮しやすい 言葉が荒い 不器用 運動が苦手 切り替えが苦手				
	好きな遊び： 折り紙・塗り絵・カードゲーム・ブロック・積木・外遊び その他 ()				
備考					
確認事項	<input type="checkbox"/> ショートステイ利用時にご持参いただくものを説明 ※別紙 <input type="checkbox"/> 里親家庭でのショートステイについて説明 ※別紙 (里親の場合のみ)				

4

利用時の情報共有フォーマット(受入表～児童～)

ショートステイ 受入れ表 (学童用) 案

受付日： 年 月 日

受付区：

新規 ・ 継続

期間： 月 日 ～ 月 日

担当者：

ふりがな	愛称		性別	生年月日	血液型	平熱
児童名			男・女	年 月 日 (歳)		°C
ふりがな	続柄		連絡先			
保護者名			(自宅・携帯)			
在籍校	小学校	年 組	該当する者には☑をお願いします。 <input type="checkbox"/> 特別支援クラスの利用 <input type="checkbox"/> 療育手帳 <input type="checkbox"/> 放課後等デイサービス等福祉サービスの利用			
住所			送迎			
福岡市	区		送り：	時間：	場所：	
			迎え：	時間：	場所：	
健康状態	身長： 約 cm 体重： 約 kg 服のサイズ：					
	アレルギー：無・有	食べ物： 動物： その他：				
	病気：無・有 服薬：無・有 塗り薬：無・有 かかりつけ医：	病名： 時間(朝： 昼： 夜： 寝る前：) 時間(朝： 昼： 夜： 寝る前：)				
	注意が必要なこと：					
体質	乾燥肌 かぶれやすい 便秘気味 下痢をしやすい 風邪を引きやすい 熱がでやすい 乗り物酔い 喘息 けいれん その他：					
	注意が必要なこと：					
食事	好きなもの					
	苦手なもの					
	食べさせていないもの					
生活リズム	起床時間		就寝時間			
	夜尿 有・無					
	有の場合の対応 ⇒ オムツ ・ 夜尿シート ・ 夜中の声掛け ・ その他 ()					
	寝る時のくせ：					
注意が必要なこと：						
性格	人見知り おしゃべりが好き 興奮しやすい 言葉が荒い 宿題が苦手 切り替えが苦手					
	不器用 運動が苦手 その他：					
	好きな遊び： 折り紙・塗り絵・カードゲーム・ブロック・積木・外遊び その他 ()					
備考						
確認事項	<input type="checkbox"/> お小遣い(所持金)を持たせる予定 有 (円) ・ 無 <input type="checkbox"/> ショートステイ利用時にご持参いただくものを説明 ※別紙 <input type="checkbox"/> 里親家庭でのショートステイについて説明 ※別紙 (里親の場合のみ)					

5

ダウンロード資料



里親ショートステイハンドブック



里親ショートステイ全国調査報告書



みんなで里親プロジェクト報告集2020



みんなで里親WEBサイト





SOS 子どもの村
JAPAN

すべての子どもに愛ある家庭を

SOS子どもの村JAPANについて

日本では、親の病気や貧困、虐待などで、家族と暮らせない子どもたちが全国で約4万5千人いて、その子どもたちの80%が施設で育っています。心身ともに傷ついた子どもたちのケアや自立の保障が十分とは言えない状況があります。また、家族と暮らせない子どもたちを養育するための家庭環境を保障していくことが、社会的な課題となっています。

当団体は、福岡市で始まった、福岡市児童相談所と「子どもNPOセンター福岡」の協働による里親普及支援事業の「新しい絆プロジェクト」をきっかけに発足しました。「SOS子どもの村インターナショナル」の日本法人として、「すべての子どもに愛ある家庭を」をスローガンに、里親による代替養育と家庭養育支援プログラムを提供するとともに、地域のなかで困難を抱えた子どもと家族のための支援を行っています。



<https://www.sosjapan.org/>

発行年月 2022年3月

発行者 認定NPO法人 SOS子どもの村JAPAN

所在地 〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-3-14 ブランシェ赤坂2階

T E L 092-737-8664

F A X 092-737-8665

E-mail foster.west@sosjapan.org